

問1 日本の産業と資源に関する説明のうち、火力発電所の立地とその背景について述べたものとして正しいものはどれですか。

(2016年 高知公立入試 類似)

1. 燃料を積んだ船が直接到着できる臨海部に立地することで、輸入から発電までの輸送効率を高めている。
2. 山間部のダムを利用して発電するため、内陸部の急峻な地形に近い場所に集中して立地している。
3. 原子力発電所に比べて事故のリスクが低いため、燃料の輸送距離を無視して大都市の市街地中心部に立地している。
4. 原料となる木材チップを国内の森林から大量に運び込む必要があるため、製材業が盛んな内陸部に立地している。

問2 日本の人口増加率と人口密度の空間的な特徴について、背景となる社会・地理的要因を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2020年 島根公立入試 類似)

1. 三大都市圏以外の地域においても、交通網の整備や地方中核都市への機能集中により、人口増加率が維持・上昇する県が存在する。
2. 高度経済成長期以降、人口密度が高い地域は太平洋ベルトにのみ固定されており、それ以外の地域で密度が高まることはない。
3. 人口増加率は全国的に低下しているため、三大都市圏であっても人口密度が上昇している地域は現在では存在しない。
4. 日本の人口密度は、山地が多いという地形的制約を反映し、内陸部の県であればどこでも沿岸部より一律に高くなっている。

問3 日本の食料自給率の推移を品目別に示した統計において、主食である米はほぼ100%を維持していますが、これに次いで自給率が高く、およそ80%前後で推移している品目として適切なものはどれですか。 (2024年 三重公立入試 類似)

1. 野菜
2. 小麦
3. 大豆
4. 畜産物

問4 瀬戸内工業地域において、化学工業の出荷額の割合が高い理由を説明したものとして、最も適切な背景はどれですか。 (2020年 愛媛公立入試 類似)

1. 大型船の接岸に適した水深のある海岸沿いに、原料の輸入に便利な石油化学コンビナートが形成されたから。
2. 古くから続く塩田の跡地を利用して、安価な電力を活用したアルミニウム精錬が全国に先駆けて行われたから。
3. 大都市圏に近い利点を生かし、消費地向けの医薬品や化粧品を製造する中小規模の工場が分散して立地したから。
4. 内陸部の鉱山から産出される石炭や鉄鉱石を加工するために、官営の模範工場が瀬戸内海沿岸に設置されたから。

問5 20世紀初頭から21世紀初頭までの約100年間における、日本の発電設備容量の推移と電源構成の変化について説明した文として適切なものはどれですか。なお、この期間の統計において、水力発電の設備容量は着実に増加を続けています。 (2025年 岡山公立入試 類似)

1. 水力発電の設備容量は増加傾向にあるが、高度経済成長期以降に急速に拡大した火力発電の設備容量に比べると、総量では下回っている。
2. かつては火力発電が主流であったが、環境問題への関心の高まりとともに、現在では水力発電の設備容量が火力発電を追い抜いている。
3. 水力発電の設備容量は、1900年代初頭から現代まで日本の発電設備全体の過半数を占め続けており、エネルギー自給の柱となっている。
4. 高度経済成長期に火力発電の設備容量が一時的に増えたものの、オイルショック以降は再び水力発電が火力発電の設備容量を上回るようになった。

問6 徳島県上勝町の統計において、夜間人口を100とした時の昼間人口の割合を示す指標は、1990年には93でしたが、2005年には102、2010年には104と上昇し、昼夜の人口バランスが逆転しています。このような変化が起こった背景にある、この町の取り組みとして適切なものはどれか。 (2017年 岐阜公立入試 類似)

1. 「葉っぱビジネス」と呼ばれる地場産業を活性化させ、高齢者が地域内で働き続けられる環境を整えた。
2. 大規模な工業団地を誘致し、周辺の都市部から若者の労働力を大量に住まわせることに成功した。
3. 町全体を観光地化し、宿泊施設を増やすことで夜間人口を昼間人口よりも大幅に増やした。
4. 隣接する市町村と合併したことで、行政の中心地としての機能が移転し、公務員の通勤者が増加した。

問7 2004年と2019年の地域別輸出入額の統計を比較した際、日本の貿易構造の変化について述べた文として、当時の状況に合致するものはどれですか。 (2023年 大阪公立入試 類似)

1. 2019年はアジアや北アメリカといった地域別の割合に変化が見られる中で、日本全体としては輸入額が輸出額を上回った。
2. 2004年当時は貿易赤字が続いていたが、2019年には輸出額が輸入額を大幅に超える貿易黒字へと転換した。
3. 2019年には北アメリカへの輸出が途絶えたため、アジア地域のみが唯一の貿易相手国となった。
4. 2004年から2019年にかけて、すべての地域との貿易において輸入額が輸出額を上回る貿易赤字が継続した。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
燃料を積んだ船が直接到着できる臨海部に立地することで、輸入から発電までの輸送効率を高めている。
- 日本の火力発電所が海岸線に集中しているのは、資源の乏しい日本がエネルギー源を海外に求めている状況を反映しています。大型専用船での大量輸送は、パイプラインや陸上輸送に比べてコストを抑えられるため、船から直接燃料を補給できる「臨海部」が選ばれます。これにより、燃料の輸入からエネルギー供給までの流れをスムーズにしています。
- 問2** **答え 1**
三大都市圏以外の地域においても、交通網の整備や地方中核都市への機能集中により、人口増加率が維持・上昇する県が存在する。
- 人口増加率や人口密度の分布は、単に「都会か田舎か」という二分法だけでは説明できません。近年では、地方においても行政や商業の拠点が集まる都市部、あるいは子育て支援策や産業誘致に成功した特定の県において、三大都市圏に引けを取らない人口の流入や維持が見られます。例えば、2010年代の統計において人口増加率が高い地域が全国に点在しているのは、こうした地方都市の成長や、沖縄県のような独自の人口構造を持つ地域の存在が影響しています。太平洋ベルトという従来の枠組みを超えた、多角的な視点での理解が求められます。
- 問3** **答え 1**
野菜
- 日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内で自給する体制が整っているため100%近い数値を保っていますが、野菜についても鮮度が重要視される品目であるため、国内生産量が消費量の大部分を占めており、他の品目と比較して高い自給率を維持しています。これに対し、小麦や大豆は海外からの輸入への依存度が非常に高くなっています。
- 問4** **答え 1**
大型船の接岸に適した水深のある海岸沿いに、原料の輸入に便利な石油化学コンビナートが形成されたから。
- 瀬戸内海沿岸は波が静かで水深が深く、大型タンカーなどの船舶による原料の輸送に適しています。この地理的条件を活かして、広大な埋め立て地に複数の工場がパイプラインで結ばれた石油化学コンビナートが建設されました。これにより、原油からプラスチックや化学繊維の原料などを効率的に生産する体制が整い、地域の主要産業となりました。
- 問5** **答え 1**
水力発電の設備容量は増加傾向にあるが、高度経済成長期以降に急速に拡大した火力発電の設備容量に比べると、総量では下回っている。
- 日本の発電の歴史では、かつては「水主火従（水力が中心で火力が補助）」という形態でしたが、高度経済成長期に急増する電力需要に応えるため、短期間で大容量の発電が可能な火力発電所が次々と建設されました。その結果、水力発電も設備容量自体は増えてはいるものの、現代では火力発電の設備容量が水力を大きく上回る「火主水従」の状態となっています。
- 問6** **答え 1**
「葉っぱビジネス」と呼ばれる地場産業を活性化させ、高齢者が地域内で働き続けられる環境を整えた。
- 上勝町では、料理の飾りとして使われる「つまもの（葉っぱ）」を生産・販売する「葉っぱビジネス」が成功しました。これにより、以前は仕事のために町外へ出たり離れたりしていた高齢者や住民が、地域内で所得を得て活動できるようになりました。その結果、昼間に地域内で活動する人口が維持・増加し、夜間人口を昼間人口が上回るという、過疎地域の町村としては珍しい逆転現象が起きています。
- 問7** **答え 1**
2019年はアジアや北アメリカといった地域別の割合に変化が見られる中で、日本全体としては輸入額が輸出額を上回った。
- 2004年当時は輸出額が輸入額を大きく上回る貿易黒字の状態が一般的でしたが、2019年の統計では構造が変化しています。地域別に見ると、北アメリカなどに対しては依然として輸出額の方が多い「貿易黒字」を維持しているものの、世界全体を合計すると輸入額が輸出額を上回る「貿易赤字」を記録しました。これは、アジア諸国との製品分業が進んだことや、資源価格の影響を受けやすい輸入構造が背景にあります。